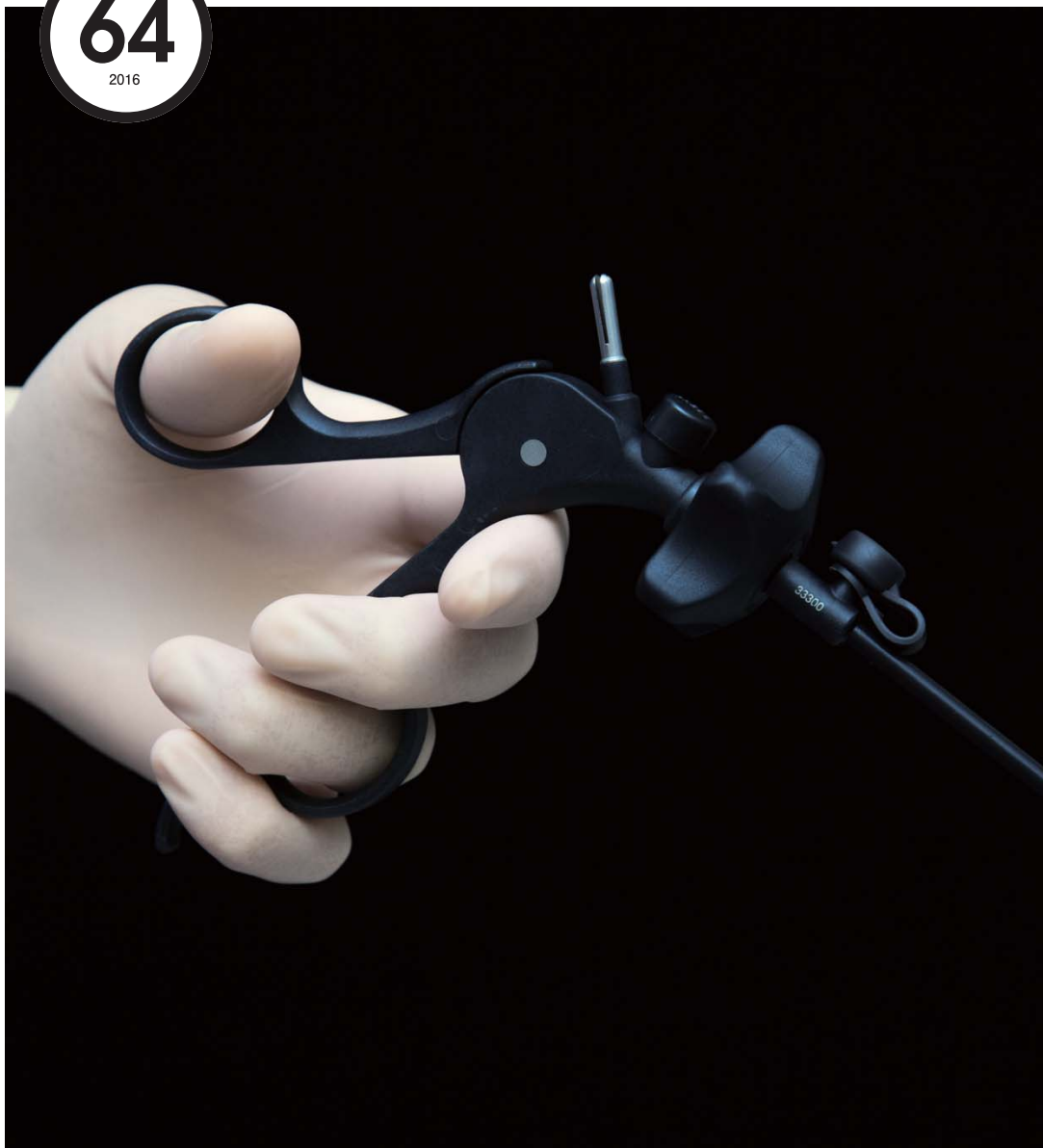


# HANDS

Kokura Memorial Hospital

64

2016



いつもの暮らしに、いつものあなた

小倉記念病院

〒802-8555 北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号 TEL.093-511-2000(代表) [小倉記念病院](#) [検索](#)

TEL.093-511-2062(医療連携課) FAX.0120-020-027(医療連携課) FAX.093-511-2032(救急室) 夜間・休日における救急患者の情報のみ

【表紙】

各種がん領域における医療技術の進歩により、より負担の少ない治療を選択し、術後長期の臓器機能、QOL(quality of life)を高めることが可能となっています。当院の外科・呼吸器外科の医師たちは、最新技術を用いたがん局所治療を駆使することにより、治療後の回復が促進され、患者満足度の向上につながる低侵襲外科治療を実施しています。



## 抗血栓療法や複数疾患を抱える重症度の高いがん患者へ

〔写真中央〕

副院長 外科主任部長 田中 明

日本外科学会 指導医 専門医  
日本消化器外科学会 指導医 専門医  
消化器がん外科治療認定医  
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医  
マンモグラフィ検査精度管理中央委員会認定読影資格  
臨床研修 指導医  
医学博士

当院では、複数疾患を抱える重症度の高いがん患者への豊富な治療実績をもとに、致命的な梗塞性合併症の発症を最小限に抑える安全な周術期管理と手術手技を確立・実践しており、これらハイリスクながん患者に対しても専門性の高い低侵襲外科治療を提供している。

手術では、複数疾患を抱える重症度の高いがん患者では点滴の投与量の許容範囲がせまいため、水分投与が多すぎると簡単に心不全を起してしまい、少なすぎると脳梗塞や循環不全が起る。これら心臓・脳血管障害を抱える重症度の高い患者には、手術時間も循環の面から考えると不利となるため、慎重かつ手際のよい手術が必要となる。

当院は全国有数の狭心症や脳卒中等の動脈硬化性重症疾患を有する患者が集まる病院だ。このためがん治療においても動脈硬化性疾患を抱える重症度の高い患者が必然的に多くなり、他施設では手に負えない基礎疾患を有する患者のがん治療についても多くの紹介を受けている。心臓・脳血管に問題を抱えた患者の外科手術を施行する上で問題となるのは、抗血栓薬（血液をサラサラにする薬）、抗血小板薬や抗凝固薬の服用、脳梗塞ハイリスク例、低心機能例であり、これらが重複するほど厄介だ。抗血栓薬を服用している患者に対して手術を行う場合は、一時的な中止でも血栓リスクが高くなり脳梗塞・心筋梗塞が発生する可能性がある。一方で、抗血栓療法継続下の手術では重篤な出血が生じる可能性がある。

日本は世界でも有数の長寿国となったが、急速なライフスタイルの変化と平均寿命の高齢化に伴い、手術対象年齢も高齢化している。単独疾患から次第に、高血圧症・心臓疾患・糖尿病・腎障害・脳神経系疾患など基礎疾患を抱える患者が増え、がん治療においても高度な技術が必要となってきた。





## ただひたすら

肝胆膵領域のがん（肝臓がん・膵臓がん・胆道がん・消化器がん（胃がん・大腸がん）の外科治療、一般外科領域（胆石症・ヘルニアなど）の手術を中心に日々の診療に従事しています。

特にがんの外科治療では、難易度の高い肝臓がん・膵臓がん・胆道がんの外科手術を得意分野としており、同疾患の手術症例数も年間60例を超え、外科治療の地域中核病院として地域医療の翼を担っています。

また、消化器がんだけでなく

肝胆膵領域がん  
2015実績

65件

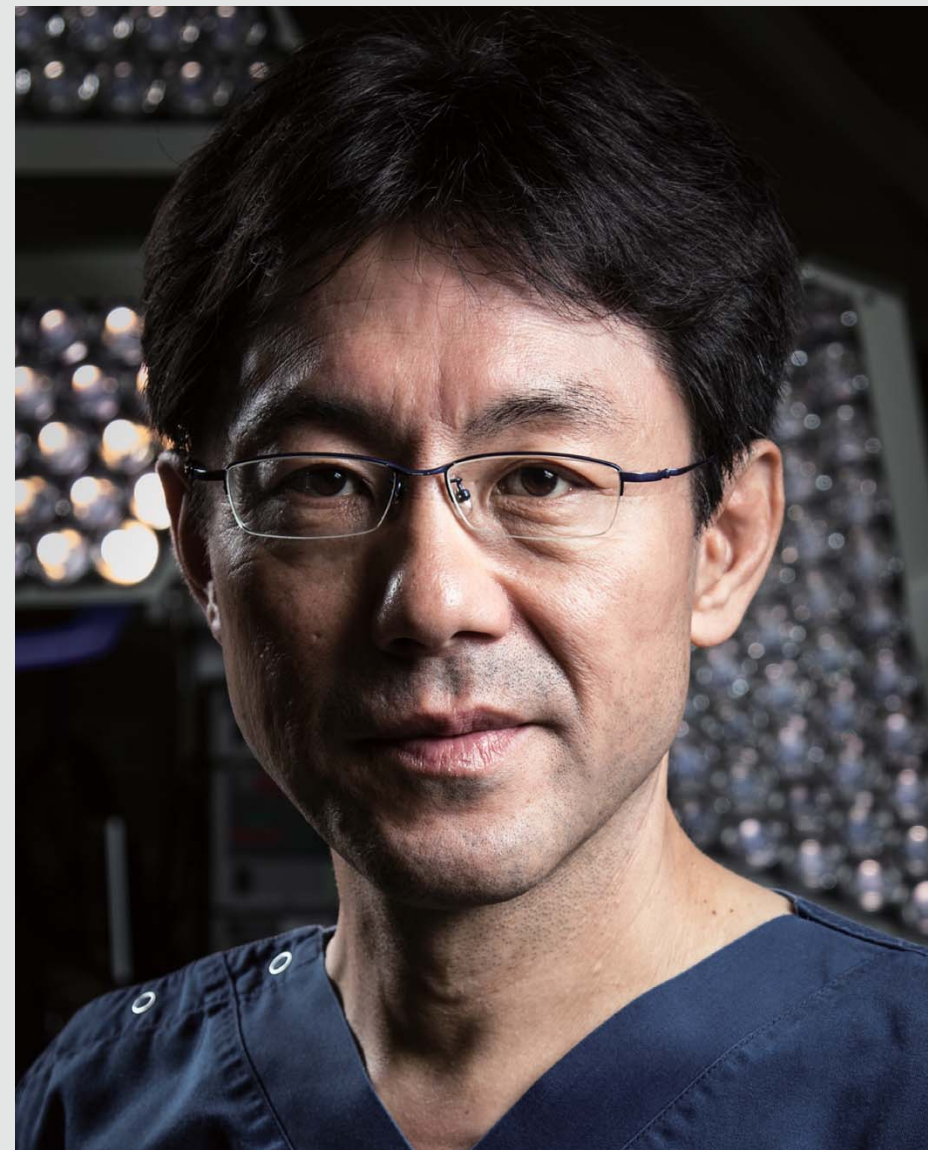
外科部長  
藤川 貴久 Profile

日本外科学会 指導医 専門医  
日本消化器外科学会 指導医 専門医  
消化器がん外科治療認定医  
日本肝胆膵外科学会 高度技能指導医 評議員  
日本内視鏡外科学会 技術認定医  
日本臨床腫瘍学会 指導医 がん薬物療法専門医  
日本癌治療認定医機構 暫定教育医 認定医  
臨床研修指導医  
アメリカ外科学会正会員(F.A.C.S.)  
医学博士

肝胆膵領域のがんについても病気の状況に応じて低侵襲な腹腔鏡手術（腹腔鏡補助下肝切除、腹腔鏡下膵体尾部切除など）も手掛けています。

当院では重症の心臓疾患・脳血管障害等を有し他施設では治療が困難ながん患者さんの外科治療も積極的に相談に乗るようになっています。患者さんひとりひとりの病状にあった最善の治療方法をわかりやすく説明いたします。

「仏心鬼手」「やさしい心」を強く持ちつつ日々の手術に臨んでいます。



外科部長  
藤川 貴久  
Takahisa Fujikawa



## 病気を診るのではなく、人を診る

私の専門分野は一般消化器外科です。日本内視鏡外科学会・技術認定医を所得しており、大腸がん、胃がん、胆石症などの腹腔鏡手術やよりそれを進化させた単孔式手術などを中心にを行っています。特に大腸がんに関しては年間手術症例数も150例を超え、大腸がん診療に関しては地域の中核病院として頑張っております。さらに高度進行がんや再発がんに対しては、化学療法、放射線療法、緩和ケアなど集学的治療も行っています。

「患者さんの目線に立った、患者さん中心の安全な医療」の確立に向け精一杯努力し、基本的に「ガイドライン（標準治療）」に基づいた治療を行っています。患者さん個々の体質や病期に最適な個別化医療も積極的に取り入れています。

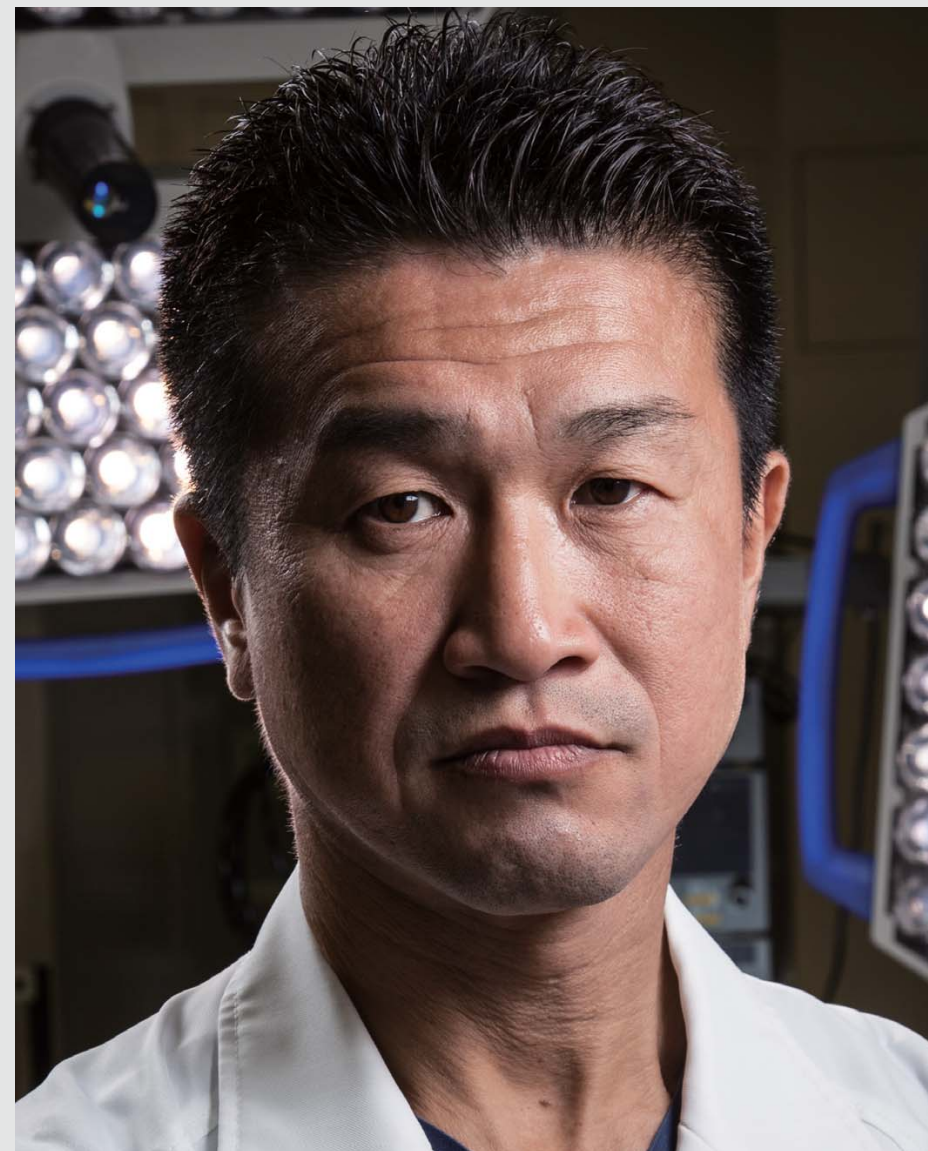
時代に即した最先端の技術・手術手技で質の高い治療の提供を目指し、病気を抱え悩んでおられる方々が、当科で治療を受けて本当によかったと感じていただけるような医療にベストを尽くし続けます。

結腸がん・直腸がん・小腸がん  
2015実績

159 件

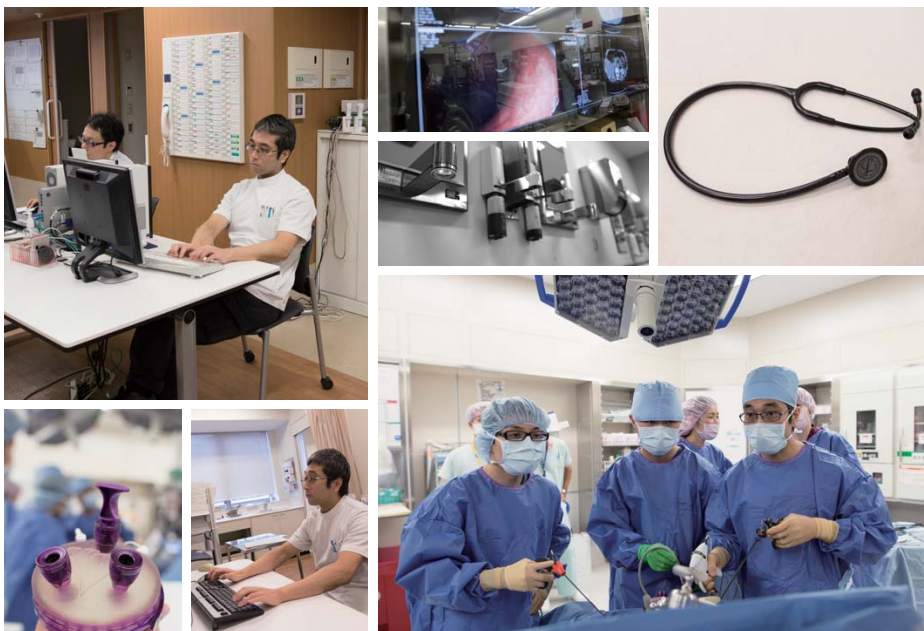
外科部長  
吉本 裕紀 Profile

日本外科学会 指導医 専門医  
日本消化器外科学会 指導医 専門医  
日本内視鏡外科学会 技術認定医  
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医  
日本癌治療認定医機構暫定 教育医 認定医  
医学博士



外科部長  
吉本 裕紀  
Yasunori Yoshimoto





## 備えあれば憂いなし

消化管外科疾患の手術、化学療法を専門としています。特に上部消化管領域（食道、胃）の鏡視下手術（腹腔鏡、胸腔鏡による手術）が得意分野です。鏡視下手術というと早期がん限定のイメージがありますが、進行がんへの集学的治療（化学療法や放射線、など複数の治療の組み合わせ）にも鏡視下手術を取り入れています。悪性疾患以外では、GISTや良性腫瘍、食道アカラシア、食道裂孔ヘルニア、鼠径ヘルニアなどに対する鏡視下手術も得意分野です。

食道がん・胃がん、胃腫瘍  
2015実績

69件

外科部長  
河村 祐一郎 Profile

日本外科学会 専門医  
日本消化器外科学会 指導医 専門医  
消化器がん外科治療認定医  
日本内視鏡外科学会 技術認定医  
日本食道学会  
日本胃癌学会  
医学博士

自分自身あるいは自分の家族が受けたらと思うような治療、医療を提供したいと考えています。治療方針の選択にあたっては、治療対象の病状が最も重要ですが、他の身体的状況（持病など）、社会的状況なども重要です。よって治療の選択については、ご本人のご意向を尊重していますが、病状についての専門的知識がなければ適切な選択は困難です。このため病状、治療方法についての説明は、正確さと共に出来る限り分りやすいことに重点を置いています。



外科部長

河村 祐一郎

Yuichiro Kawamura



## 安全性、根治性、低侵襲性

平成25年に赴任し、呼吸器外科手術を開始しました。肺がんや転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍を中心とした呼吸器外科手術は年々増加し、平成26年には呼吸器外科専門医合同委員会の関連施設に認定されました。平成27年には呼吸器外科専門医師が増員されました。

手術は安全が第一であると考えています。次に、がんの根治性、さらに低侵襲な手術がよい手術といえるでしょう。そのために手術のほぼ全例に胸腔鏡を用いています。流派は安全で応用がきき、進化し深化し続ける姫路式VATSであり、その技

呼吸器外科手術  
2015実績

115件

呼吸器外科部長  
岩田 輝男 Profile

日本外科学会 外科専門医  
日本呼吸器外科学会 呼吸器外科専門医  
日本肺癌学会 評議員  
日本胸部外科学会  
臨床研修指導医  
医学博士  
産業医科大学 呼吸器・胸部外科 非常勤助教  
北九州小倉看護専門学校 非常勤講師  
産業医学ディプロマ(産業医)

術、考え方を大切にしています。安全性、根治性、低侵襲性の3つの柱を共に達成する事は容易な事ではありませんが、柔軟性とバランス感覚を持つて、一例ごとに、最善のアプローチと術式を選択し、自分や自分の家族がうけたいと真に思えるような医療を強い気持ちで実践して参ります。自分達の技術、最新の知見、経験の全ては患者さんに還元するためであると考えています。病院のために患者さんがいるのではなく、患者さんのために医師がいる、という初心をメスを置く日まで忘れずに精進したいと思っています。



呼吸器外科部長  
岩田 輝男  
Teruo Iwata